

令和7年度 いもち病感染好適条件(BLASTAM)判定結果

発生指標	●	:好適条件	1	:準好適条件1	2	:準好適条件2	3	:準好適条件3	4	:準好適条件4
	—	:好適条件無	?	:判定不能						

- ・**好適条件(いもち病の感染に好適な気象条件)**
 湿潤期間中の平均気温が15～25度で、湿潤時間が10時間(22～25度)～17時間(15度)、直前の5日間の平均気温が20度を越え25度未満。
- ・**準好適条件(好適条件に準ずる気象条件)**
 準好適条件1: 湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20度未満。(前日までの気温が低い)
 準好適条件2: 湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25度以上。(前日までの気温が高い)
 準好適条件3: 湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤期間中の平均気温が15度～25度の範囲外。(当日の気温が不適)
 準好適条件4: 湿潤時間が湿潤期間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い。(当日の湿潤時間が短い)
 ※準的好適条件1～準好適条件4は、重要度の順位ではない。したがって、準好適条件の数値の高低そのものに重要度の意味はない。
- ・**好適条件無し**
 湿潤時間が10時間未満の場合
 ※ただし、3mを越える風(葉面が乾く)や、時間雨量3mmを越える雨(胞子が雨で流される。)があると湿潤時間の継続が打ちきりとなる場合がある
 また、好適条件が現れていもち病に感染しても、気温が30度を越える晴天の日が続くと病斑が出て小さな病斑しかでない。

[illegible]